



白木町にコミュニティセンターが完成し、4月20日、しゅん工式が行われました。同センターは、鳥羽志勢広域連合の助成を受けて建設されたもので、公民館と消防車格納庫、詰所などを併設した施設です。

町内会長の平賀さんは、「町の中心に交流の場ができて町民のみなさんも喜んでいきます。今後、町の活性化のために活用していきたいと思っています」と話してくれました。

町民の交流の場に



2006年5月からJICA（独立行政法人国際協力機構）の青年海外協力隊員として、南米のベネズエラで活動されていた山下宣明さん（答志町）が、4月23日に木田市長を訪問し、現地での隊員活動について報告しました。

2年間の任期を終えた山下さんは、「生活環境や文化などが日本とまったく違う中での支援活動は、困難なこともありましたが、現地のかたと触れ合いながら漁業協同組合の立ち上げや海の環境保護、貝の保管方法などを指導できたことは、とてもよい経験になりました」と感想を語ってくれました。

離れて初めて日本が見えました

まちの話題 1月号



毎年恒例となっている障害者互助会主催の体育祭が5月18日、市民体育館で行われ、今年もこどもからお年寄りまで幅広い年齢のかたが参加しました。

この日は、つかみどり競争やパン食い競争などの個人競技や、玉入れやスプーンリレー、綱引きなどの団体競技のほか、フォークダンスなど、みんなで楽しめる競技が盛りだくさんで、会場は笑い声や声援などで盛り上がっていました。

参加した上野ミチヨさんは「普段あまり運動しないので、楽しかったです」と話してくれました。

頑張れ、頑張れ！みんなで楽しく体育祭



5月18日、一丁目マリパーク周辺で、鳥羽しおさい市運営委員会が「春のとくべつ市」を開催し、市民や観光客など多くの買い物客でにぎわいました。

このとくべつ市は、通常第2・第4土曜日の午前7時から開催されている鳥羽しおさい市に、地元住民だけでなく新しい客層を増やすための試みとして企画されたもので、午前9時から始まりました。

この日は、地元の新鮮な海産物や農産物をお値打ち価格で販売したり、あおさ汁のふるまいやランの植え替え実演などもあり、常連客だけでなく若い親子連れや観光客の姿も多く見られました。

こんなんもお土産にええよ